



～ 設 立 2 0 周 年 を 祝 う ～

会長 長谷川由利子



今年の春は大急ぎでやって来て、突然サクラを満開にし、寒暖の差も大きく、季節が右往左往していましたが、本年度から小学校では新学習指導要領の移行期間が始まり、昨年度の全小理東京大会の成果が、より広く授業の場で生かされていることと思います。

本会は、設立20年目を迎えました。5月の総会を終え、会員112名で活動が始まりました。ご案内のように、10月6日には【OB会設立20周年】の記念行事を実施いたします。

役員・記念事業実行委員会は、実行委員長を中心として準備を進めております。記念式典や祝賀会の会場は昨年度のうちに下見を済ませ、各担当部署の具体的な準備が着々と進んでおります。また、「20周年記念誌」の発行に当たっては、広報部の計画的・精力的な活動により、会員の皆様の原稿を多数お寄せ戴くことができました。

多大なるご協力ありがとうございます。

本年は特に設立当初の諸先輩の思いに立ち返り「理科の好きな人が集う場」として、我々自身の心をより豊かにするOB会でありたいと考えます。記念事業が、旧交を温めたり、新たな出会いが生まれたりする場となって、共に20周年を祝うことができれば、この上ない幸せです。よろしくお願い致します。

今年1月に、化石「アキシマクジラ」がコククジラの新種として報告されました。

東京を流れる多摩川の河川敷で57年前に発見され、最近の5年間でより詳しく研究された結果です。発見された地層から約200万年前の化石と推定されました。

化石の発見はいくつもの奇跡が連続することで、新種のクジラ誕生となったそうです。

自然の不思議さや人間の知恵の素晴らしさを、これからも共有して参りましょう。

設立20周年記念事業の取り組み

(その3) 記念式典・祝賀会のご案内

20周年記念事業実行委員会
実行委員長 吉田英也

本年度は、本会設立20周年という大きな節目の年度です。設立のご努力から未来までも思いを馳せられる大切な年度に、本会の記念事業を完遂する為、会員の皆様にはこれまでの取り組み状況をOB会便り【54号（実行委員会組織と祝賀会等の企画）・56号（一次案内）・57号（記念誌）】でお知らせして参りました。

いよいよ記念式典・祝賀会の開催期日が迫って参りましたので、ここに改めて下記の通りご案内いたします。

記

東京都小学校理科教育研究会OB会
設立20周年
記念式典・祝賀会

- ◆ 日 時 平成30年10月6日(土) 午後1時～3時30分
- ◆ 会 場 スクワール麹町 【四ツ谷駅より徒歩3分】
- ◆ 会 費 5千円 (この他に、本会より2千円を補助します。)
- ◆ 内 容 第一部：記念式典 第二部：祝賀会
当日受付にて「20周年記念誌」を配布します。
- ◆ 連絡先 実行委員長 吉田英也 (電話は名簿を参照願います)

本年度が20周年に当たることにちなみ、設立におけるご努力からその後の進化・充実した活動等に深く関わってられました方々に、当時から現在、20周年に向けた貴重なお話を伺える機会を5月に得られました。

◆ 臨席者：栗野俊昭氏（設立にご尽力された当時の都小理会長、都小理OB会発起人）

馬場恒夫氏（第4代会長）

細井隆輝氏（第5代会長）

蛭田俊男氏（第6代会長）

長谷川由利子氏（現会長）

吉田英也氏（20周年委員長）

司会：大門康雄氏（広報部長）



司会：都小理OB会が設立20周年を迎えますが、設立の経緯を教えてください。

栗野：全小理は、平成10年度に北海道大会を計画していたところ、北海道小理が「12年度でないといけない」と突然連絡してきたのです。これまでの全小理研究大会に穴を空けず続けることが大事なので、平成10年度は急遽東京大会にすることにしました。すると、(都小理)顧問の細井先生が、顧問の方々から本当に一生懸命に資金を集めて助成してくださったのです。

細井：北海道大会ができないのなら、できる場所を探るのが、顧問の役目と考えていました。そこで、全小理会長でもある都小理会長の願いを実現させようと顧問

が一堂に集まる日に、一斉に各顧問から集金し、資金面からも都小理に協力したのです。

栗野：こういういきさつを経て「東京大会は盛会」で幸い黒字になりましたので、その一部を顧問の皆様へ返金しようとしたのですが、それよりはこの資金を基に、顧問の皆様への了承を得て【OB会】を創ることにしましたのです。(第一回総会で、会則と役員会組織、会費2,000円、OB会便りの発行を決定)

司会：会則や役員会組織、会費などを決め、本会の運営を確かなものにしていったのですね。

平成14年には、庶務部、広報部の他に、研修部が新設されましたが、その頃のいきさつをご存知の方は・・・。

馬場：初め、研修部は本会の活動方針に入っていませんでした。しかし、平成13年度に松田先生を中心に科学技術館・高尾山薬王院へ自主的に研修を行いました。これがきっかけで、「自然の観察や触れ合いはいいものだ」という思いが蘇り、翌14年度にはムササビの観察・プラネタリウムの見学、と研修活動が定着していったのです。

司会：平成23年度には、OB会研究奨励賞や理科講師派遣事業を創設していますが・・・。

細井：特別会計の資金があるのに、それを貯めておくだけではなく、有効活用を考えようとしたからです。若い教員が、個人でも自分のテーマのもとに着々と研究している者がいる、という実態から【OB会からの新たな提案】として「理科に心を注ぐ若い教員を育てよう」と取り組んだのです。

蛭田：趣意書を著し・賞の金額などを決め、募集要項を配布する方法も考えました。実際に配布するには、現役の理解を図らねばなりません。そこで、都小理のみならず各地区の理科部会にも出かけ、地区理事に応募をお願いしました。また、ホームページを立ち上げて広く理解を深めて実施し、これらの段取りに約1年かけました。同時に、この事業を担当する部署が必要になってきます。この時に【調査部】を作り定着を図ったのです。その後、都小理研究員の育成に協力するために応援参加し、【調査研究部】へ改組して更なる組織的な活動へと結びつけています。

司会：若い教員を育てるといった新たな目的を持って、OB会事務局の部の組織が拡充し、現在の組織になっていったのです。これまで様々な取り組みをしてきたOB会の思いが分かったのですが、OB会の長所は何でしょうか。



栗野：「ここへ来れば栗野先生に会える」と言われたことがあり、組織があるからではなく、人の繋がりがあることが長所だと思います。

馬場：長所は、「《自然の中にいる》という喜びを感じる人」が、いっぱいいることだと思います。

長谷川：一人では行けない所でも、研修会で行くことができ、OB会はありがたい存在です。

栗野：他の教科では、都小理OB会の様な充実した組織は少ないのではないのでしょうか。それだけに貴重です。

細井：ただ会が存続しているというのではなく、年々組織が充実し、活動内容も豊かになっていますね。



蛭田：広報活動の内容が充実し、OB会活動に貢献しています。特にOB会便りは構成が素晴らしく、読んでみると研修会に行けなくても「今度行ってみようか」という気持ちが湧いてくるほどなんです。

栗野：OB会便りの中にネパールの記事があり、執筆者とは交流の機会を持ちましたよ。OB会便りは、人と人とを結びつけてもいますよね。

吉田：10月の20周年の祝賀に向けて会長から一言お願いします。

長谷川：20周年の祝いの席が旧交を温め、新たな人と人との出会いの場になると嬉しい。また、会員の皆様が記念誌に向けて多くの原稿を寄せてくださり、本会への思いが伝わってきます。20周年が、OB会として初心にかえり、また新たなスタートになってくれるよう願っています。



司会：本会は人の繋がり自然を宝物にし、年々活動を進化させる努力を積み重ねていった事が心に強く残りました。

研修活動

研修部長：福田晴男

研修活動は、都小理OB会活動の大きな柱です。そこで、春から秋にかけて自然観察をメインに、内容の濃い研修会となるよう本年度も3回の計画を立てました。奮ってご参加ください。

- ◆ 第1回研修会は4月18日に「自然観察会」を実施しました。下欄の第1回研修会報告をご覧ください。
 - ◆ 第2回研修会は7月6日に「オオムラサキとヤマユリの観察会」を実施済みです。
報告は、次号（第59号 12月末発行）で行います。
 - ◆ 第3回研修会は、11月29日（木）10:00～12:00に施設見学会【帝京大学医学研究科】を行います。
- ※ 今後も参加しやすいように、第3回研修会の詳細は、後日別便で連絡します。

第1回研修会報告

⇒⇒⇒

ダイナミックな生命の営み

【報告者：関根昭雄】

- ◆ 期日：平成30年4月18日（水）午前10～12時
- ◆ 会場：サクラ草公園（さいたま市桜区・田島ヶ原）
- ◆ 講師：サクラソウ自生地を守る会 関口忠雄氏

田島ヶ原（サクラ草公園）は、雨の中の鮮やかな緑の草原でした。友人から「サクラソウが見られるよ」との誘いを受けた私は、初めてこの研修会に参加させて頂き、サクラソウが自生しているという田島ヶ原で、講師の関口先生の歯切れとテンポのいいお話を伺いました。そのお話は、ただサクラソウについての話だけではなく、荒川河川敷の形成過程の歴史やそこに営まれる植物群の説明でした。お聞きしているうちに、私の中の「植物園」という概念はすっかり変わりました。



【雨や寒さにも負けぬ意欲に富んだ参加者】

お目当てのサクラソウは、50～60cmに伸びたアシの間から見る事ができました。所々に肩を寄せ合って可憐に咲いているサクラソウはアシの緑の中でもみくちやにされながらも健気に咲いていたのです。その他にも、アマナ、アマドコロ、チョウジソウ、ヒロバナヤスリ、シロバナタンポが等々たくさんの野草が自らの一瞬の生命を輝かすべく、アシの根元で咲いていました。



左上：田島ヶ原
右上：観察風景
左下：サクラソウの花

こうした姿や景色を見る事が、植物を見るという事なのだと思います。それぞれが自分の命を広げようとせめぎあっている姿はダイナミックな生命の営みそのものでした。講師のお話を聞きながら、ただの緑の草原の中に実に豊かな自然の営みがある事を教えていただきました。

正に、田島ヶ原は雨の中の生命の輝きに満ちた緑の草原でした。

OB会研究奨励賞授賞式を挙行

平成30年5月13日、都小理総会后、「OB会研究奨励賞」の授賞式を挙行了しました。今後、二人の受賞者が一層活躍されますよう祈念します。

< 通算 第8号 >

- 研究主題：開発教材「風バルーン」の実践報告
—— 第3学年「風やゴムの働き」を通して ——
- 受賞者：町田市立函師小学校 教諭 菅井 翼



< 通算 第9号 >

- 研究主題：活用の授業が仮説設定能力に与える影響について
- 受賞者：町田市立七国山小学校 教諭 中村 大輝



尚、研究概要・受賞理由は、OB会便り57号（平成30年3月31日発行）に掲載しています。

総 会 報 告



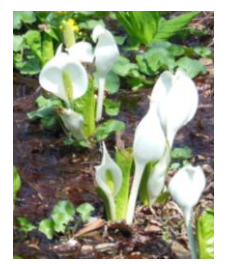
【OB会旗を掲げ、総会を開催】

5月13日(日)に都小理OB会総会を開催しました。
この1年間 長谷川由利子会長のもと、組織化された各部の活動と決算、現役都小理への協力等、充実した活動状況が報告され、本年度は更に進化した活動計画・予算が承認されました。また、本年度の目玉である20周年記念事業では、記念式典・祝賀会・記念誌の発行等、会員一同で祝えるよう準備が着々と進行中です。
尚、役員・事務局等の組織は、下記の通りです。

会員 (5月13日現在) 本年度9名が新たに加わり、会員数112名となりました。

平成30年度の役員・事務局等の組織

会 長	長谷川由利子			
副 会 長	黒澤紀夫	(事務局長、HP、都小理との連絡調整)		
	吉田英也	(20周年事業実行委員長)		
	時澤 廉	(広報部担当)		
	山本満里子	(庶務部・会計担当)		
	川越秋廣	(調査研究部担当)		
	福田晴男	(研修部長兼任)		
事務局	◎は部長、○は副部長			
庶務部	◎植松光一	○安齋正彦	丹 伸子	石川博朗
	森 富子			
研修部	◎福田晴男	○丸山麻雄	叶 雅之	荒井公毅
	吉岡一彦	関根正弘	千葉秀一	
広報部	◎大門康雄	○干臺健治	丸山雅弘	半田あつ子
	高橋延友	鈴山尚子	中村裕子	猿渡厚史
調査研究部	◎中村 守	○太田由紀夫	石川喜三郎	吉井恵子
	折本周二	樋口 昇		
会 計	◎江平秀子	石井登志枝	清澤和人	
会計監査	栗野俊昭	邊見公子		
顧問	松田邦雄	馬場恒夫	細井隆輝	蛭田俊男



【会員往来】

本会会員 中山正彦様 (平成7年退職) が
平成30年3月27日ご逝去なさいました。
ここに、謹んで哀悼の意を表し、お知らせ致します。



- ◆ 《庶務部》より: 会則と会員名簿を同封しました。訂正や変更は庶務部へ。
- ◆ 平成30年度の行事予定

1 都小理OB会 設立20周年記念式典・祝賀会
→→平成30年10月6日(土) 13:00~15:30 【会場:スクワール麴町】

参加申し込み ⇒ 既に郵送されている申し込みハガキにて8月15日締め切り

2 第3回研修会 (施設見学会) →平成30年11月29日(木) 10:00~12:00

【帝京大学医学研究科 (板橋キャンパス)】 集合: (埼京線) 十条駅 改札口に午前10時

3 全小理大会→平成30年11月8日(木)~9日(金) 【茨城大会: 水戸市立国田義務教育学校、他】

4 20周年記念事業実行委員会 → 研修会 及び OB会役員会 の終了後に開催

5 OB会役員会→→平成30年9月20日(木) 18:00~ 【会場: 新宿栄寿司 西口店 ☎ 03-3340-2525】

平成31年1月22日(火) 14:00~ 【会場: 板橋・志村坂下小・田中薫子校長】

平成31年3月5日(火) 14:00~ 【会場: 昭島・拝島第三小・石川博朗校長】

